

第9回、第10回東日本大震災高校生現地ボランティア募集 7月14日～、7月20日～

高校生の皆さん、保護者・教職員・関係者の皆様へ

2016.10.14 がんばろう！つばさネットワーク

2011年3月11日の東日本大震災直後の結成以来、当グループは、復興支援として気仙沼現地ボランティアを過去8回(2016年は2回で中高生7校111名含む125名で)敢行しました。次回は2017年7月に第9回、第10回の気仙沼現地ボランティアを実施します。参加希望の方はお早めに申し込みをお願いいたします。

主催 がんばろう！つばさネットワーク

代表 松野雅一(北摂つばさ高校初代PTA会長)

後援 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

大阪府ユネスコ連絡教義会(申請中)

子どもゆめ基金(申請中)

申し込み先事務局 藤井伸二(北摂つばさ高校)

snjfi@leto.eonet.ne.jp 090-3271-4292



内容

気仙沼大島でのカキ養殖支援。津波の際、木に挟まって助かった方が多数おられた海岸での植林支援、陸前高田の視察、気仙沼高校との交流を予定。お笑いを子どもから高齢者まで提供できる方歓迎。

費用

高校生25,000円+義援金4,000円。(以下の☆1、☆2参照) 社会人(保護者など大学生以上) 29,000円。

内訳: 大阪=気仙沼間のバス運行費および宿泊(民泊2泊)、ボランティア保険(600円)など参加費15,000円。

現地バス代、現地活動費、食事(5食=裏面)を含む、大阪・気仙沼双方向の復興活動支援金10,000円

☆1: 阪急茨木市駅前募金(17-18時)⑤月つばさ1学期中間試験最終日と②翌授業日および③7月つばさ1学期期末試験最終日と④翌授業日。詳細4月に連絡)への参加1回を義援金1,000円に振り替えます。

☆2: 2016年7月参加者のみ 2016.12.23(土)One World Festival For Youth(谷町9丁目、大阪国際交流センター)の企画「第7.8回高校生気仙沼現地ボランティア報告会」(14:30-15:30)での報告を募金1回に振り替えます。

要件

申込要件: ①申込書②費用・義援金③生年月日(①に記入、ボランティア保険に使用)④保険証(医療券)コピー

⑤領収証(有印)を受領後、裏面の宛先に「学校名、学年、氏名」を送信。登録完了の返信で、申し込み完了。

参加要件: ①説明会出席(詳細7行下を参照)、②免責承諾書と肖像承諾書の提出、③募金完了(高校生)

実施後の協力: 報告会への参加

※申込時、参加時に要件が揃わないとお断りする場合があります。

※高校生の染髪・華美は弔問の意味から、お断りするとお考え下さい(つばさ生は学校行事に準じます)。

人数

第一次募集は高校生各便30名が予定人数。基本的に先着順。最少催行人数は各便高校生20名です。

第二次募集は新入生対象。2016年参加校の在校生で希望者は第一次募集で必ず申し込んで下さい。

一次募集期間: 2016年10月27.28日、11月17.18日。定員以降は補欠順位をつけます。

説明会①つばさ4月28日15:45、②つばさ1学期期末試験最終日13:20、つばさ以外は、後日通知します。

***** (切り取り線)

がんばろう！つばさネットワーク代表 松野雅一 様

2016年()月()日

2017年 第9回 7/14-18、第10回 7/20-24、気仙沼現地支援ボランティアに費用(+義援金)を添え参加申し込みします。

表裏両面の説明を読み了解しました。2回の説明会に参加します。参加者氏名()

生年月日(西暦)(/ /)住所(〒 /)

携帯電話()メールアドレス()

参加費(円)、義援金(円)を同封します。義援金に替えて、募金活動()回に参加します。

20161223「報告会」で報告します。事務局記入 □20160715-19参加 □20160720-24参加 □20161223OWFY

★この行以下は未成年の場合のみ★ □保護者として表裏両面の説明を読んで了解しました。

保護者メールアドレス()

保護者携帯電話() 生徒欄と保護者欄についての保護者同意署名()

***** (切り取らないでください)

2016年()月()日

様

領 収 証

申込み順

番

一金

円也

但し、2017年 第9回 7/14-18、第10回 7/20-24、の気仙沼現地ボランティア費用(参加費、支援金+義援金)として

がんばろう！つばさネットワーク 代表 松野 雅一 無印無効

必ずお読み下さい

現地支援ボランティアの催行予定（現地との調整でメニューの差し替え、変更場合があります）

移動：超大型バス(正席 49+補助席 11)予約◎ 株式会社ロマンス 過去 8 回、当活動のバスを運行。

日程表の見方：朝食参加費に含まれています。朝食各自負担となります。◎確定しています。

第 9 回日程	2017 年 7/14	2017 年 7/15	2017 年 7/16	2017 年 7/17	2017 年 7/18
第 10 回日程	2017 年 7/20	2017 年 7/21	2017 年 7/22	2017 年 7/23	2017 年 7/24
6:00-12:00		朝食 全体ミーティング	朝食 陸前高田 視察	朝食 気仙沼高校交流 ◎	◎5:00 頃 帰阪解散
12:00-18:00	18:00 集合	昼食 気仙沼大島 カキ養殖支援	昼食 気仙沼階上 植林支援活動	昼食 市街視察 14:00 出発	
18:00-24:00	20:00 出発 ◎	夕食	夕食	夕食	
0:00-6:00	移動(車中泊)	八瀬・民泊 ◎	八瀬・民泊 ◎		

確認事項と免責事項

- この活動は、任意団体ががんばろう！つばさネットワークが個人旅行を取りまとめる形で主催しています。大阪府立北摂つばさ高校の主催行事ではありません。万一の事故の場合、同校や大阪府教育委員会に責任を問うことはできません。安全第一で催行し、危険回避のため行程が変わる場合があります。上記の趣旨から万が一の事故の際はボランティア保険の適用範囲内で対応します。ボランティア保険の限度額(900 万円)を超える場合、あるいは保険が適用されない場合、がんばろう！つばさネットワークは免責(責任を免れること)となることをご了解下さい。保険の内容は事前にお渡ししますので、内容を確認し、高額の保険を希望される方は、各自でお申し込み下さいますようお願いいたします。
- 高校生の現地ボランティアは被災された方々はじめ多くの関係者の協力で成立しています。この協力態勢は、大阪で高校生が募金をして被災地の高校生を大阪に招待していることへの、被災地の皆様の御礼の気持ちが多分に含まれています。よって、大阪招待への貢献を参加要件にしています。しかし、参加校が府下に広がり、距離的に大阪招待に関われない参加者もおられます。そこで、駅前募金に参加できない場合、別の形で完結する被災地への貢献として、義援金をお預かりして全額、気仙沼高校にお届けさせていただいております。
- 国土交通省の通達で平成 26 年 7 月 1 日よりバス料金が改訂されました。長距離バスの過当競争による事故を排除し、バスの車種毎に決められた最低料金以下で運行するとバス会社は営業停止等の処分を受けます。2016 年度は教育効果が認められ子どもゆめ基金の助成で一人 33,000 円を超える費用徴収を回避できました。
- 1 便目または 2 便目が最少催行人数に満たない場合、いずれか 1 便を中止にする場合があります。必要がある場合、5 月 31 日に判断します。この場合、該当の参加者に通知します。便の変更については、相談に応じます。
- 軍手と長靴をご用意下さい。既往症がある場合等は各自の症状に併せて、必要な準備をお願いします。

***** (切り取り線)

表面の記入にあたっては、☐欄に☒のようにチェックを入れて下さい。

がんばろう！つばさ
ネットワークの活動は
HP でご覧になれます。
QR コードは以下。



申込日は 2016 年
10 月 27.28 日。11 月 17.18 日
手渡しできない場合は、
表面を写メで撮影しメール送信して下さい。

振込先をお知らせします。

振込完了、メール登録完了で、参加申し込み完了です

参加者で未成年の方は
保険証(または医療券)の
コピーを添付して
下さい。(のりしろ)

***** (切り取らないでください)

表面の領収証の右下の押印(無印無効)を確認のうえ、

snjfi@leto.eonet.ne.jp に「学校名、学年、氏名」を送信して下さい。

登録完了メールの受信で、申し込み完了です。日程が確定次第、説明会①②の時刻と場所をお知らせします。

生徒さんたちの働きに感動しました 20131228 受信

結婚して宮城から茨木に来られたMさん(20代女性)から激励のメールをいただきました。

件名:「広報いばらき」を読ませて頂きました。

本文: 突然のメールにて失礼致します。私は茨木市に住む20代の主婦です。1月の広報いばらきで、つばさネットワークの活動を知り、感動してメールさせていただきました。ぜひ一市民がこんな風を感じたことを、勝手ではありますが生徒さんたちに伝えて欲しいと思います。

私は宮城県出身です。内陸の出身ですが、南三陸町・気仙沼は何度も訪れた場所です。気仙沼大島には家族で旅行もしました。海がとても綺麗で、人も優しく、食べ物も美味しい所です。ですが震災・津波で大きく変わった街並みは、辛い風景でしかありませんでした。今でも津波やがれきの街並みは、震災の精神的ショックを呼び起こし自然と涙が溢れてきてしまいます。

震災後に結婚して茨木市に住むようになり、こちらで暮らしていると震災が忘れられてしまっているようで、悲しく思っていました。

しかし、広報いばらきで知ったつばさ生の活動を読んで自分の想いは間違っていたという恥ずかしさと、生徒さんたちの働きに感動しました。もっとこの活動を多くの人に知って欲しい。生徒さん、先生方、保護者方、たくさんの方の協力と支援に感謝致します。

ありがとうございます。今後のご活躍をお祈りしています。

←広報いばらき

2014年1月号記事

2013.12.25 発行

茨木市役所

茨木市内約12万世帯に全戸配付されています。

ご覧になった方もおられると思いますが、再掲載します。

20140108

北摂つばさ高校
エネスコール・コーディネーター
藤井・佐藤・末岡

市民活動団体紹介コーナー 市民活動の

Vol.24 がんばろう! つばさネットワーク



気仙沼大島でのカキ養殖加工場の移設作業の様子

高校生同士の交流を通じて、被災地の元気に貢献

がんばろう! つばさネットワークは、東日本大震災を機に、北摂つばさ高校生徒たちの「被災地のために何かしなければ」という思いから平成23年(2011年)に発足した団体です。同校生徒や教員、春日丘高校の生徒、地域のNPOなどが参加し、街頭募金活動や宮城県気仙沼市でのボランティア活動などの復興支援活動に取り組んでいます。

同団体は、復興支援活動を通して、思いやりの心を持って社会貢献できる人材の育成を目的としています。昨年12月までに、同校等高校生のべ105人で気仙沼市訪問を4回実施し、避難所でたこ焼きを振る舞い、公園のヘドロ除去、気仙沼大島でカキ養殖加工場の復旧作業に取り組みました。また、大阪でリフレッシュしてほしいと宮城県気仙沼高校生徒を2回で計51人、大阪に招待しました。その間、5回にわたって合計104万4,808円の義援金を同校に届けました。同校との交流は続いており、他団体の協力を得て、3月29・30日に北摂つばさ高校で気仙沼高校の硬式野球部と他2校を交えた交流試合を行います。

同団体は今後も高校生同士の交流を通じて、被災地の元気に貢献していきたいと考えています。

問合先 がんばろう! つばさネットワーク 藤井 ☎ 090・3271・4292

☎ 市民活動センター ☎ 623・8820



宮城県気仙沼市のカキ養殖復興支援に訪れた、大阪府立北摂つばさ高等学校の生徒たち (P4参照)

地域社会貢献の中心にパスポートをすえる

大阪府立北摂つばさ高等学校

ユネスコスクールの大阪府立北摂つばさ高等学校は、ESDの一環として活発にボランティア活動に取り組んでいる。

東日本大震災の被災地支援では、生徒たちが実際に気仙沼へ赴き、カキ養殖のためのイカダ復興活動を支援した(表紙写真)。また駅前募金で資金を集めて気仙沼の高校生を大阪に招待し、ホスト家族宅と学校間との送迎も行った。

一方、地域活動にも積極的に参加している。地元のフェスティバルでは楽器を演奏するほか、模擬店を出店したりお手伝いをしたりしている。地域の保育所や高齢者施設では、子どもたちやお年寄りの方々と接する実習を行い、AEDの講習にも参加している。里山保全活動としては、定期的に間伐活動をお手伝いし、また地域の農家の協力を得て、田植えや稲刈りといった米づくりの実習も行っている。

こういった活動の成果を、目に見える形で記録するのがESDパスポートだ。ESDパスポートは2013年に始まったばかりだが、同校では今後、生徒全員がパスポートを携帯する予定。現在は、入学以来のボランティア活動について



**↑日本ユネスコ協会連盟の全国機関誌の表紙を飾る！
全国2万人のユネスコ協会会員に郵送されています。**

記録を掘り起こしており、整理でき次第、全員に配布する。

生徒たちには、人に対する思いやりを持てる人、思いやりを持って自然に行動できる人になってほしい。そして、生徒全員が少しずつでも「act local」を実践することで、地域社会に貢献する学校になることを目指す。ESDパスポートは、その中心として位置づけられている。同校では、社会貢献活動の3年間の目標と年間予定を策定し、これに沿って活動を勧奨している。

ESDパスポートを取り入れたことによって、生徒たちは、学校関係者がコーディネートする活動以外の、地域でのボランティアについても意欲的になり、「ボラン※(下記参照)」を貯めようという意識も高まっている。地域への浸透はこれからだが、「ESDパスポートの登場によって、ボランティアの要請をしやすくなった」という声もある。生徒たち自身、地域貢献が学校の特色になっていることを自覚し、学校の名誉を考えて行動しよう、と考えるようになってきた。そして、地域に出ていって感謝されることに、以前にも増して喜びを見出している。

エリーニ・ユネスコ協会では、参加校が体験を学び合うワークショップを1月に予定している。